2025年９月２日

各　位

会　社　名　　株式会社ジーエヌアイグループ
代表者名　　取締役代表執行役社長兼ＣＥＯ　　イン・ルオ
（コード番号：2160　東証グロース）
問合せ先　　取締役執行役副社長ＣＯＯ兼ＣＦＯ　　松井　亮介
（TEL. 03-6214-3600）

投資家の皆さまからのご質問と当社見解

平素より当社事業へのご支援を賜り、誠にありがとうございます。投資家の皆さまよりいただきましたご質問とその回答について、下記のとおり開示させていただきます。なお、本開示は情報発信の強化及びフェアディスクロージャーの観点から開示するものです。

記

・　**2025年７月実施した海外募集に関して（2025年７月23日開示資料）**

Ｑ１：なぜ株式の希薄化を伴う増資を選択したのか？ その目的は何か？

Ａ１：当社は資金調達におけるデットとエクイティのバランスを踏まえ、成長資金の調達手段として今回増資を選択いたしました。金融機関からの借入も活用していますが、さらなる調達手段が限定的な中で、成長機会を逃さないために増資が必要と判断しました。今回の資金調達はグローバル製薬・ヘルスケア企業へと躍進していくためには重要なステップであると位置づけています。
また海外募集の手法を選択した結果、初めて当社を知る投資家を含め、事前予想を大幅に上回る海外の機関投資家に参加して頂いたことでグローバルマーケットにおける当社知名度向上につながったと考えております。

Ｑ２：過去増資は行わないと明言していたが、今回増資に至った理由は何か？

Ａ２：当社は過去、当時の事業環境や資本政策を踏まえ、増資を行う必要性は低いと考えておりました。しかしながら、現在は次の成長ステージに向けた事業投資が必要な局面にあり、外部からの資金調達手段が依然として限定的な中、機動的に資金戦略を実行することが中長期的な株主価値の向上につながると判断し、今回の海外公募増資を決定いたしました。

Ｑ３：今回の増資の影響と、今後の資金調達方針はどう考えているか？

Ａ３：今回の増資により株式数は増加いたしましたが、調達した資金を成長の基盤として活用し、既存株主の皆様の利益向上につながる形で、当社の成長戦略を一層加速させてまいります。
今後につきましては、上場企業としての責任を踏まえ、間接金融（金融機関からの借入）および直接金融（株式・社債等による資金調達）を含む多様な資金調達手段を選択肢として保持し、市場環境や当社の成長ステージに応じて、最適な方法を柔軟に選定してまいります。

Q４：（資金使途のひとつである）M&A 案件には急ぐ事情があるのか？

A４：グローバルで持続的な成長を目指す上で、M&A による事業ポートフォリオの拡充は有効な選択肢だと考えていますが、M&A の達成を急いでいる訳ではなく、最適な案件を最適な条件で合意することを念頭に置いています。

公募増資における資金使途として M&A を明示したことにより、昨年度比で持ち込み案件数が大幅に増加しております。 当社では、本年より投資委員会にて案件を厳選しており、単なる日本企業の買収を目的とするのではなく、日本事業の黒字化に資する案件、または日本国内において医療機器部門とのグローバルなシナジーが見込まれる案件を重点的に検討しております。

Q５：（資金使途のひとつである）Gyre Pharmaceuticals 社の株式取得は戦略的に計画されたものか？

A５：未上場である連結孫会社の Gyre Pharmaceuticals 社の企業価値は、その上場親会社である Gyre Therapeutics 社の株価と連動することから戦略的にモニタリングしております。当社単体による Gyre Pharmaceuticals 社株式の直接買い取りおよび株式保有は、当社株主の皆さまにとっても中長期で有益になると判断しております。

・ **F351 に関して**

Q６：先日 FDA より承認された GLP-1 製剤の肝線維症適応拡大について、当社グループが開発中の F351 に与える影響はあるか？

A６：新薬開発には不確実性が伴うため断定的なことは申し上げられませんが、2025 年５月に良好な結果を公表した F351 の第３相臨床試験は、中国における「慢性 B 型肝炎由来の肝線維症」を対象としたものであり、米国における MASH を対象とした他社製品とは市場が異なります。MASH 由来の肝線維症を対象とした米国での開発については、当社子会社が米国当局との相談を含めて検討を進めておりますが、F351 は他社の代謝系薬剤と作用機序が異なり、併用される可能性もあります。そのため、他社の MASH 治療薬の承認が必ずしもネガティブな影響のみとは限らないと考えております。

Q７：F351 の具体的なプロモーション活動は何か行っているのか？

A７：F351 の上市後に円滑な市場浸透を目指し、2025 年３月に F351 とシナジー効果が期待できる肝疾患治療薬 Contiva を販売開始いたしました。Contiva の販売を通じて肝疾患領域に強みをもつ病院、医師や患者の方々に対する販売ルートの確立を進めております。

・ **上場に関して**

Q８：当社のプライム市場移行の進捗はどうなっているのか？

A８：当社は 2022 年の市場再編に伴い、東証マザーズから東証グロース市場へ移行いたしました。以来、さらなる企業価値向上を目指し、東証プライム市場への市場区分変更を重要な経営課題の一つとして認識し、検討を進めております。

プライム市場への市場区分変更の申請および審査の過程においては、事業の継続性やガバナンス体制が厳格に評価されます。そのため、審査期間中に M&A や子会社再編等を行うことは、審査プロセスに影響を及ぼす可能性がございます。

現時点ですぐに市場区分の変更手続きに入ることは、こうした成長戦略の選択肢を一時的に制約する可能性があると判断いたしました。当社は現在、事業拡大を最優先する成長フェーズにあり、

M&A 等も重要な成長戦略の一環と位置づけております。
つきましては、現在推進中の成長戦略を着実に実行することを優先し、プライム市場への移行については、引き続き準備を進めつつ、最適なタイミングを慎重に検討していく所存です。株主ならびに投資家の皆さまにおかれましては、何卒ご理解くださいますようお願い申し上げます。

Q９：Cullgen の NASDAQ 上場の進捗はどうなっているのか？

A９：決算説明会資料（2025 年８月 29 日開示、19 頁）に記載のとおり、現在は中国証券監督管理委員会（CSRC）の審査結果を待っている状況であり、CSRC の承認をもちまして、次のステップへ進みます。NASDAQ とは上場に向けた事前準備（書類提出・質疑応答など）をしており、CSRC からの取引承認を獲得次第、速やかに本取引の完了および上場へ向けたプロセスを開始する予定となっております。

・　**当社の株価に関して**

Q10：空売り投資機関との関係について、当社としてどのように認識しているのか？

A10：当社の株式は高い流動性を持つため、証券会社ごとに組成される株価特性や業績に基づいたファクター指数や、お客様ごとにカスタマイズされたポートフォリオであるカスタムバスケットに組み入れられています。
当社の株式に空売りポジションが発生することがありますが、これは当社個別銘柄に対する否定的な見方に基づくものではありません。マクロ投資の台頭や、運用ポートフォリオの特性リスクを減らす目的で、高変動率、好モメンタム、ハイグロースといった特定のファクターをショートするファクターバスケットの一部として組み込まれているためであり、純粋にファクター運用の結果によるものです。
「証券会社が空売りしている」という誤解を招くことがありますが、これは名義上の問題に過ぎません。皆さまが信用取引を行う際、取引名義人が証券会社と表示されるのと同様に、空売り残高の名義人も同様に扱われます。そのため、実際に空売りを行っている投資家と証券会社は、多くの場合、無関係です。証券会社はあくまで取引のプラットフォームを提供し、執行と管理を行っているだけです。

・　**事業提携先について**

Q11：オルツ社の倒産は当社に影響あるのか？

A11：2024 年４月に株式会社オルツとの業務提携、５月に合弁会社設立の合意をいたしました。しかしその後、合弁会社の設立は行われず、業務提携に関しても具体的な事業の進展には至っていないことから、当社の業績や財務への影響はございません。

以上